



むかしの七夕の星

むかし
昔のカレンダーである太陽太陰暦（旧暦）の七夕を「伝統的
七夕」とよんでいる。伝統的七夕のころは、現代のカレンダーの
7月7日より夏の大三角や天の川がみやすい高さに昇ってくる。
最近（さいきん）は天の川（うつ）まで写るカメラ（きょう）や機能（きよう）を搭載（とうざい）しているスマート
フォン（ふ）も増（ふ）えている。三脚（さんきやく）がない人も、セルフタイマー機能（じぶんおへい）を
活用（かつう）して地面（じめん）に置（お）いたり、塀（へい）に立（た）てかけたりして星空（さつせい）を撮影（さつえい）
してみるのもいいかもしれない。



撮影（さつえい）方法は機種（きしゆ）により異なるため、写真（しやしん）を
撮（と）ってみたい人は空（くう）が明（あ）るうちに練習（れんしゅう）して、
使い方（な）に慣（な）れてから挑戦（ちようせん）してみよう！



図：8月19日21時頃（天頂付近）のようす（Stellanavigator/Astro Arts）

☆伝統的七夕とは？

現代（こくりつ）のカレンダーでの7月7日は、まだ梅雨（つゆ）空（くう）でなかなか星（ほし）をみることが
できない。そのため国立天文台（こくりつてんもんたい）は2001年以降（いこう）、太陽太陰暦（たいようたいいんれき）の7月7日に
近い日（ひ）を「伝統的七夕」とし、星空（さつせい）をみることがよびかけている。
伝統的七夕（でんとうてきせ七夕）の日（ひ）は、次のように定義（ていぎ）されている。

二十四節気（にじゅうしせつき）の処暑（しよしよ）を含む日（ふく）かそれよりも前（まえ）で
処暑（もつと）に最も近い朔（さく）（新月（しんげつ））の瞬間（しゆんかん）を含む日（かぞ）から数（かぞ）えて7日目（ななめ）

この定義（ていぎ）から、年（ねん）によって日付（ひふ）が変わる。（左（ひだり）の表（へい）を参照（さんしょう））

2026年は処暑（しよしよ）が8月23日、処暑（しよしよ）に最も近い新月（しんげつ）の日（ひ）が8月13日のため、
8月13日から数（かぞ）えて7日目の8月19日が今年の伝統的七夕（でんとうてきせ七夕）になる。

日	月	火	水	木	金	土
9	10	11	12	13 新月	14	15
16	17	18	19 伝統的七夕	20	21	22
23 処暑	24	25	26	27	28	29

8月のカレンダー（抜粋）

伝統的七夕（でんとうてきせ七夕）の日（ひ）は、梅雨（つゆ）明け（あけ）後（ご）で晴天（せい）率（りつ）が高い（たか）。また、月（つき）も月齢（げつれい）6（半月（はんげつ））よりやや細（こ）いくらいの形（かたち）のころで、21時（じ）～22時（じ）ころには沈（しず）んでしまいう
ため、おりひめ・ひこぼし（こよみ）や天の川（あまのかわ）（あつ）がみつけやすい。
暦（れき）の上（うへ）では夜（よ）は暑（あつ）さが和（やわ）らいでくる頃（ころ）合（あ）いだ。夕涼（ゆうすず）みがてら、昔（むかし）の人（ひと）たち
が楽し（たの）んだ七夕（せ七夕）の空（そら）を追（つい）体験（たいけん）してみよう！

次回の観覧会

【9月25日（金）】
18：00～22：00
（最終受付 21：30）

テーマ
「中秋の名月」

2035年までの伝統的七夕の日

年	日付
2026	8月19日
2027	8月 8日
2028	8月26日
2029	8月16日
2030	8月 5日
2031	8月24日
2032	8月12日
2033	8月 1日
2034	8月20日
2035	8月10日